

神奈川県水産技術センター研究報告投稿規程

投稿資格

報文の発表は当センター職員、県水産関係職員及び退職者とする。但し、業務委託による受託者または共同研究者においては、連著の場合に限り発表できるものとする。

内 容

報文は原著論文（一般報文、短報、総説）、研究情報など、水産業振興や水族生態、水域環境などに関するものとする。

原稿の受付

原稿の書き方に則し、A4用紙で作成し、表紙、本文、図表を各3部と、研報投稿カードをそえ企画経営部編集担当（以下「編集担当」という。）に提出する。

校 閲

受け付けられた報文は、各部・場から選出された編集委員、または、編集担当が依頼した校閲者による校閲を速やかに受けるものとする。報文の内容に関して問題があると編集委員及び編集担当が判断したときは、編集担当が投稿者にその旨を通告し、投稿者と協議するものとする。

報文の受理

報文は編集担当が依頼した2名の校閲者から、掲載が可となったのち、共通利用PCに標準搭載されているワープロソフトにて作成した表題、著者名、英文表題、英文著者名、英文解説（Abstract：なくても良い）を現行印刷物のページ幅とし、本文と図表、摘要（なくても良い）、引用文献、英文摘要（なくても良い）を、2段組で1段25字×52行とした、そのまま印刷できる状態のものを1部、および原稿を1部提出すること。

用語と制限ページ、カラー写真の掲載等

報文の用語は日本語または英語とする。

報文の長さは原則として、図表を含めて刷り上がり10ページ以内[#]とする。それを超える時、また、カラー写真の掲載については、編集担当と協議する。

[#]：日本文では原稿用紙6枚（1行25字の場合、96行）が1印刷ページに相当する。

英文では1行10語、22行の場合、約4.5枚で1印刷ページに相当する。

原稿の部数

原稿は、本文・表・図を問わず、全て2部（1部はコピーで可）を編集担当に提出する。

原稿の用紙と書き方

原稿は共通利用PCに標準搭載されているワープロソフトを用いてA4用紙に11ポイントで、和文では25文字×22行、英文では10語×22行で作成する。また、全てのページにページ番号を付する。句点には「。」を使い、読点には「，」または「、」を用いる。

報文の構成

報文の構成は原則として以下のとおりとする。

和文：表題、著者名、英文著者名、英文解説（Abstract or Synopsis、つけなくても良い）、本文、摘要（つけなくても良い）、引用文献、英文摘要（つけなくても良

い)。

英文：表題、著者名、日本文表題、日本文著者名、Abstract or Synopsis（原則としてつける）。本文、摘要（つけなくても良い）、引用文献、和文摘要。

その他：県職員は所属、県職員以外の外部投稿者は所属機関、所在地を脚注に付す。

表 題

表題は簡潔に論文の内容を表すようなものとする。特に、表題に共通表題、連続番号および副題を併記したい時は次のようにする。

(例)

小田和湾の藻場の魚類－6

群集の地域性と持続性

Fishes of Zostera Zone in Odawa Bay-6

Locality and continuity of fish communities

著 者 名

和文で連名の時は「・」で連ねる。ローマ字書きの様式は名、姓の順とし、名の頭文字にキャピタル、後ろにスモール、姓をキャピタルにし、3名以上連名の時は、「,」で連ね、最後の名は「, and」でつなぐ。

(例)

山田太郎・川上次郎・山川三郎

Taro YAMADA, Jiro KAWAKAMI, and Saburo YAMAKAWA (2名以上の時)

Saburo YAMAKAWA (1人の時)

所 属 (本文第1ページ脚注)

投稿者の所属は、ローマ字書きの著者名の右肩に「*」をつけ、本文第1ページの脚注に入れる。所属名が複数の場合は「*」、「**」、「***」のようにする。所在地は、郵便の届く程度のものとし、郵便番号をつける。

(例1) 所員などの場合

山田太郎 Taro YAMADA*

脚注* 資源環境部 (本所職員の場合)

相模湾試験場 (相模湾試験場職員の場合)

内水面試験場 (内水面試験場職員の場合)

(例2) 県職員以外の外部投稿者の場合

山田太郎 Taro YAMADA*

脚注* 長崎大学水産学部〒852-8131 長崎市文教町

(例3) 英文原稿の場合

山田太郎 Taro YAMADA*

脚注* Faculty of Fish., Nagasaki University, Bunkyou machi, Nagasaki,
852-8131 (長崎大学水産学部)

ランニングタイトル (誌面上部欄外に載せる表題を簡潔に短縮した形のもの)

和文原稿では和文で20字以内、英文原稿では英文で語間空白部分も含めて50字以内とし、原稿1枚目の上部に記載する。

原稿第1枚目の書き方

原稿第1枚目は表紙とし、その上部には、表題からはじめて、和文の場合は英文著者名まで、英文の場合は日本文著者名までを書くものとする。

また、ランニングタイトル、表題および著者名に付随する脚注もここに記載する。

Abstract あるいはSynopsis

英文のAbstract あるいはSynopsis については、原稿2枚目にこれだけを書く。

本 文

本文は、原稿の3枚目から書き始め、原則として、緒書（はしがき）、材料および方法（実験方法、調査方法）、結果、考察、摘要（要約）、引用文献の順序に従い、見出しは2行どりで中央にゴシックで記載する。材料および方法の項のうち、試料、分析法などの小見出しおよび結果の項の中の小見出しは左端に寄せてゴシックとする。

謝 辞

特に長い謝辞が必要な場合は、別項目としても良いが、その場合は引用文献の前に入れる。

生物名・人名・単位など

動物・植物の和名はカタカナ書きとし、学名はイタリックを指定する。同じ学名が繰り返して出る場合は、2度目以降は、混同の可能性のない限り属名を略記する。命名者を入れる場合はローマンで入れる（頭文字をキャピタル、後をスモールキャピタル）。

人名の姓は、英語で書く場合はキャピタルとする。

文字の指定

文章中、文字の指定がある時は、アンダーラインをして、ゴシックをゴシ（g）、イタリックはイタ、スモールキャピタルはS.C.などと指定する。

数式のうわつき、したつき記号、およびギリシャ文字は明瞭に指定する。

図、表の書き方

刷り上がりの図、表の大きさは原則として、横幅が17cm または8cm となるので、原図の横幅はそれぞれの2倍程度とする。図中の文字の刷り上がりの大きさも十分配慮して作図する。

図表原稿は本文と別葉にし、挿入個所を本文原稿中の右欄外に朱書きすること。

図、表の説明表の説明は、表そのものの上部に書き、図の説明は別葉とする。番号はゴシックで、「表1」、「Table 1」、「図1」、「Fig.1」とする。和文報文中に英文解説をつける場合は、図表の説明を英文説明とする。英文解説をつけない場合は、図表の説明を和文説明とする。

引用文献

本文中の文献引用は以下の例に従い、肩カッコで番号を半角でつける。また、3名以上のものについては、「…他」「…et. al」とし、同文章での引用が複数の時は1, 2) の様にする。数値は、1桁は全角、2桁は半角とする。

(例)

1. …山田・森¹⁾ は、…YAMADA・MORI¹⁾ は、…MOCHIOKA et al.¹⁾ は
2. …と考えられる^{1, 2)}。

上記のような2種類の表示として、本文中に（山田¹⁾）のようにカッコをつけた標

記はしない。

引用した文献の配列は引用順とし、順次番号をつけ、同一著者の同一年の発表については年号の後にアルファベットをつけて区別する。続いて引用する同一著者名は「-」のように、同じ雑誌が並ぶときも、同誌 (ibid.) などと略してはならない。

ただし、同一機関発行の同一文献を累年にわたって引用した場合は、以下のように略しても良い。

(例) 神奈川県水産試験場 (1973-77) : 昭和47-51年漁況海況予報事業結果報告

各文献は次の形式にのっとり、下記の例にならって記載する。(年号)は半角とし、巻は太字とする。ページは11-25の様に半角で表示する。句点の「,」や「.」は全角とする。

雑誌の場合 著者名 (年号) : 論文表題, 掲載雑誌名, 巻(号), ページ

単行本の場合 著者名 (年号) : 執筆者名, 「書籍名 (編者等)」, 出版社, 出版地, ページ,

全文の引用は、編者 (年号) : 書籍名, 出版社, 出版地, 総ページ数

インターネット上からの引用は、「引用もしくは参考にしたページタイトル」〈URL〉 (アクセスした年月日)

(例)

- 1) 山田一郎・田中明・鈴木正雄(1975) : 東京湾の水質について, 水産海洋研究, 20, 25-32.
- 2) YAMADA I., TANAKA A. and SUZUKI M. (1975) : On the water quality of Tokyo Bay, Bull. Japan. Soc. Fish. Oceanogr., 20, 25-32
- 3) 阿部宏喜(2000) : イカの呈味成分, 「イカの栄養・機能成分 (奥積昌世, 藤井建夫編著)」, 成山堂書店, 東京, 61-85.
- 4) 奥積昌世、藤井建夫編著(2000) : イカの栄養・機能成分, 成山堂書店, 東京, 214pp.
- 5) 「関東東海地方 (伊豆諸島及び小笠原諸島を除く) への台風接近数」
〈http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/typhoon/statistics/accession/kanto_koshin.html〉 (2011/09/13アクセス)

私信、未発表などは引用文献の項には記載しない。

規定の適用

この規定は神奈川県水産技術センター研究報告第6号から適用する。

神奈川県水産技術センター研究報告投稿カード

整理番号	受付日時	受理月日		担当者
論文の種類	[] 一般報文 [] 短 報 [] 総 説			
著者名				
著者英名 (ローマ字)				
所 属 名				
論文題名 (和 文)				
論文題名 (英 文)				
提出原稿				
原稿枚数	回数	表数	備考	
印刷の希望：			別刷（別途相談）	
受理原稿				
原稿枚数	回数	表数	備考	
コメント等				